CLOSEUP

岩手力！

支援企業紹介

有限会社ジーエフ・トップ

ミクロン公差の高精度加工技術で最高品質の製品づくりに挑む精密金型のパーツメーカー

金ケ崎町のジーエフ・トップは、超精密プラスチック金型を中心に各種精密金型の部品製作と製造を行っている。また、マシニング・センター（数値制御工作機械）、NC旋盤などの最先端産業機械に用いられる精密な各種パーツも製作・製造。ミクロン公差の高精度加工技術で、最高の品質を備えた製品づくりに挑んでいる。

フライス盤による切削加工。精度の高い作業を行うには熟練技が必要とされる。同社では、若い熟練工の育成にも力を入れている。

主力は精密プラスチック金型部品

同社の営業品目は、超精密金型用の各種部品と超精密機械用の各種部品などだ。なかでも中心は、前者におけるプラスチック金型用の超精密パーツ。電子機械のコネクター関係、自動車機器のハーネス関係、超極細の注射針などの医療機器関係、複写機内の機構部品などに使われる超精密プラスチック部品などの製造を支えるプラスチック用金型のパーツを製作・製造している。

後藤辰男社長は、「弊社が受注しているのは、ほとんどが特注品。おなじみのお客様が各地におりまして、そこから図面がファックスで流れてきて、それに対して見積もりを含めて回答。それでオーケーになれば、すぐに加工に入るというスタイル」と、製品の特徴と受注の流れを説明する。

現在の主要取引先には、特注品の金型部品では業界トップクラスのシェアを持つパンチ工業を始めとして、ミヤノ、エレック北上、ナカヤマ精密などがあり、さらにインターネットや業界内のクチコミによる全国各地からの注文も相当な数にのぼるという。

◀最新のＮＣ設備。「数値を正確に入力してセットすれば機械が自動的にやってくれるが、小ロット生産なので、製品ごとに数値をセットする段取りは大切です」（後藤社長）

高精度・高品質を追求

同社は単品注文にも対応し、短納期、低価格で、高度な加工技術を駆使した高い品質の製品づくりを常に追求してきた。設立は1992年3月。建設機械・重機械メーカーの小松製作所に入社して「ものづくり」の世界に入った後藤社長は、その後、金型業界を含めてさまざまな職業を経験。40歳のときに現在の会社を興した。後藤社長は、「現在もそうですが、他社さんが嫌がる仕事、面倒くさがる仕事、追加加工などをどんどん引き受けてきた」と話す。

最新機器の導入など、設備投資では、いわて産業振興センター（当時は、岩手県中小企業振興公社）の「設備貸与制度」を活用した。センターが機械や設備を購入して低利で割賦販売またはリースをする公的制度だ。

顕微鏡を使っての砥石の成形。その砥石を使って微妙で微細な研磨をおこなう。

当初の営業活動も、センターが主催する「受発注商談会」に出席して自社のアピールをして仕事を確保したという。

最近では、人材育成などのために、センターのさまざまなプログラムを活用し、みずからも積極的に参加している。

若手社員の意識変化に期待

2006年からはセンターの助言もあり、毎年6月に東京ビッグサイトで開催される「機械要素技術展」に参加してきた。これは機械要素、加工技術を一堂に集めた日本最大の専門技術展で、今年は全国から1625社が出展し8万7679名が来場した。

「弊社は、3年連続で出展してきました。他社さんの技術を見ることができて刺激や勉強になるし、商談も20社以上と新しく成立した。往き帰りの新幹線で一緒になる業界の人もいて、一杯飲みながら営業の話もできる。一石二鳥でした」

「機械要素技術展」には、若い社員も数人参加した。意欲的に他社のブースをのぞき、他社の技術を研究・吸収しようとする姿が見られた。後藤社長は「この仕事は、やっぱり最後は技術力。もっと自分の技術を高めたい、会社を良くしていきたいといった意識の高い社員をいかに育てていくかが勝負だ」と話す。

センターではカイゼン能力の高い意欲的な人材育成を支援するために「いわてものづくりアカデミー」を開催している。同社ではこれまでも若手社員を参加させてきたが、今年は社員側から「参加したい」という声があがり「5S活動（整理・整頓・掃除・清潔・しつけ）」の研修に参加する若手社員が出てきた。後藤社長は「やらされるのではなく、自分からやりたいというのが大きい」と、若手社員たちの間に起きてきたムーブメントに期待を寄せている。

▼1200度まで温度をあげることができる熱処理用の釜。熱処理の手法によって強度や硬度を高めたり、または内部をやわらかくして外側だけ硬くすなるど、いろいろと材料の性質を変化させることができる。「弊社の心臓部の一つですね。若手社員には『材料と熱処理を覚えたら、これからが楽だよ』と言っている」（後藤社長）

■後藤辰男社長／1952年２月、金ケ崎町生まれ。社会に出て最初に勤務した小松製作所で工具の名前や用途などの基本から学び、ものづくりのスタートを切る。その後、整備士、プレス加工業、建設会社、金型製造業などを経験。1992年３月に創業し社長就任。趣味はゴルフ。「つい先日、上海に行ってきたが、技術を極め、技術を発揮していけば日本でもやっていけると感じた」

企業概要

●創　　業　1992年3月25日
●代 表 者　後藤辰男
●所 在 地
［本社工場］金ケ崎町西根改断14番地3
●電　　話　0197-44-5193
●資 本 金　700万円
●従業員数　68人
（本社・工場63人、古川工場5人）
●事業内容
精密プラスチック金型の部品（電子機械のコネクター関係機構、弱電用のスイッチ・ケース関係機構、自動車機器のハーネス関係機構、複写機・OD機器関係の機構の部品）、超精密機械部品（IC・プリント基板専用機械用、特殊測定機器用、工作機械用、特殊自動機器用、治工具ゲージ等）、一般精密部品
●主要取引先
パンチ工業㈱、㈱ミヤノ、㈱エレック北上、ナカヤマ精密㈱など

URL
http://www.gftop.co.jp/

今月の表紙／（有）ジー・エフ・トップの若手社員。左から高橋英明さん(32)、十文字信さん(24)、阿部伸也さん(31)、及川綾さん(28)、村上大悟さん(32)。「1000分の1ミリ台の精度が求められる仕事で大変ですが、図面通りに正確できれいなものができたときはうれしいですね」（高橋さん）

▼精密旋盤による円筒研磨の様子。経験と熟練の技術が必要な作業で「材料の中心軸と平行に、きちっとまっすぐに研磨していくには、材料の性質もよく知っていなければできない」（後藤社長）